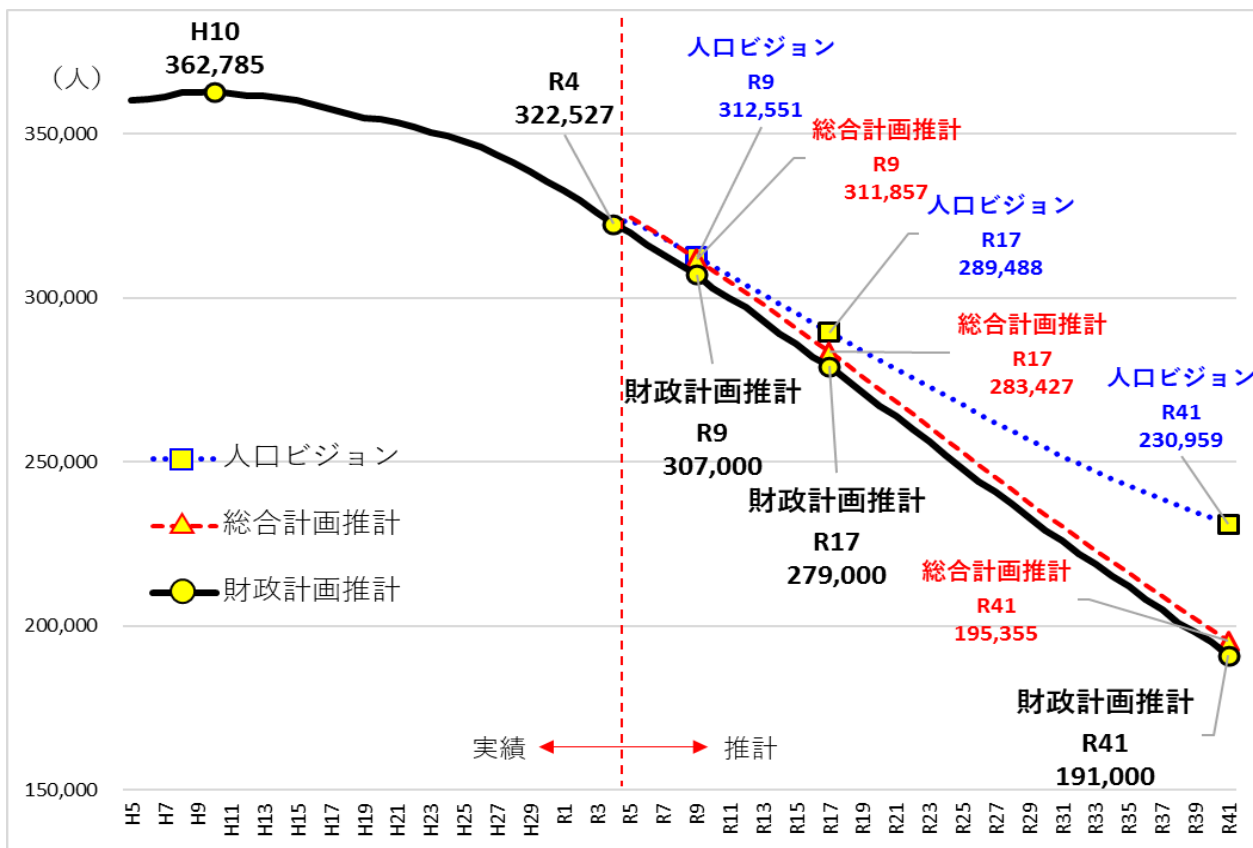


(1) 旭川市の人口（行政区域内人口）の推移予測



**上位推計**

「旭川市人口ビジョン【改訂版】」（令和2年3月）における人口推計（理想像と位置付けているパターン）

**中位推計**

本市のまちづくりの指針である「第8次旭川市総合計画」（平成27年9月）における人口推計

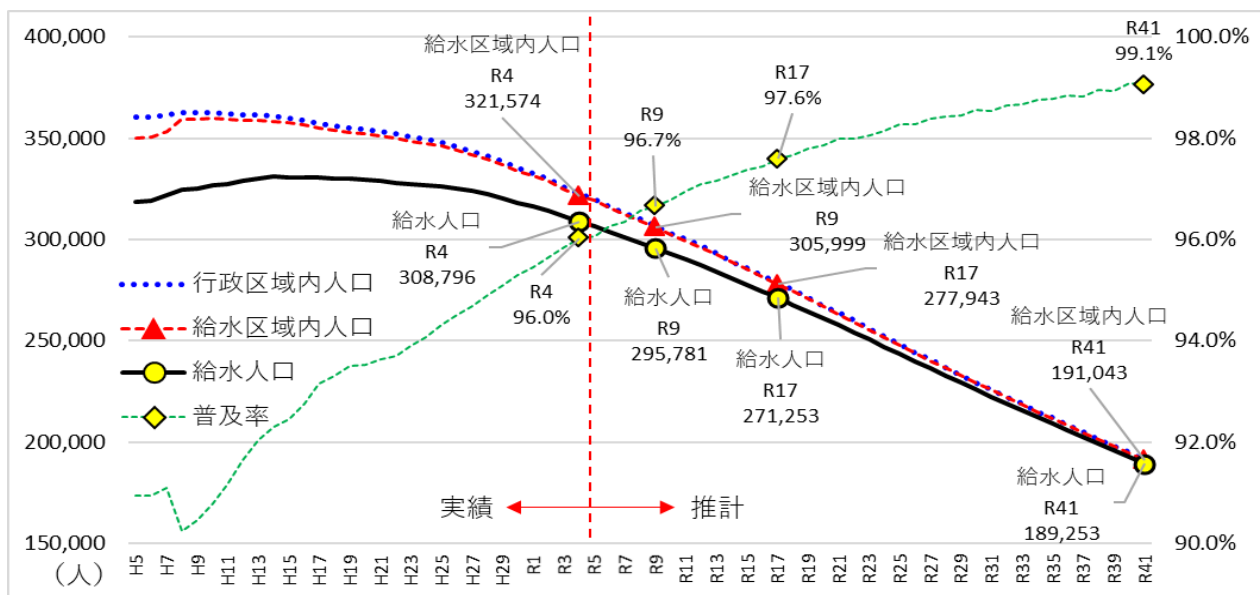
**下位推計**

総合計画の推計をベースに、その後の実態を考慮し、下方修正した人口推計

この推計を基に、収益などを試算していきます。

## (2) 水道事業会計の事業環境予測

### ア 給水人口の予測



#### 【現状（令和4年度末現在）】

- 給水区域 本市の人口集中地区を概ねカバー

$$\frac{\text{給水区域内人口 } 321,574 \text{ 人}}{\text{行政区域内人口 } 322,527 \text{ 人}} = 99.7\%$$

- **給水人口** 308,796人 = 96.0% (普及率)  
給水区域内人口 321,574人

#### 【将来推計の考え方】

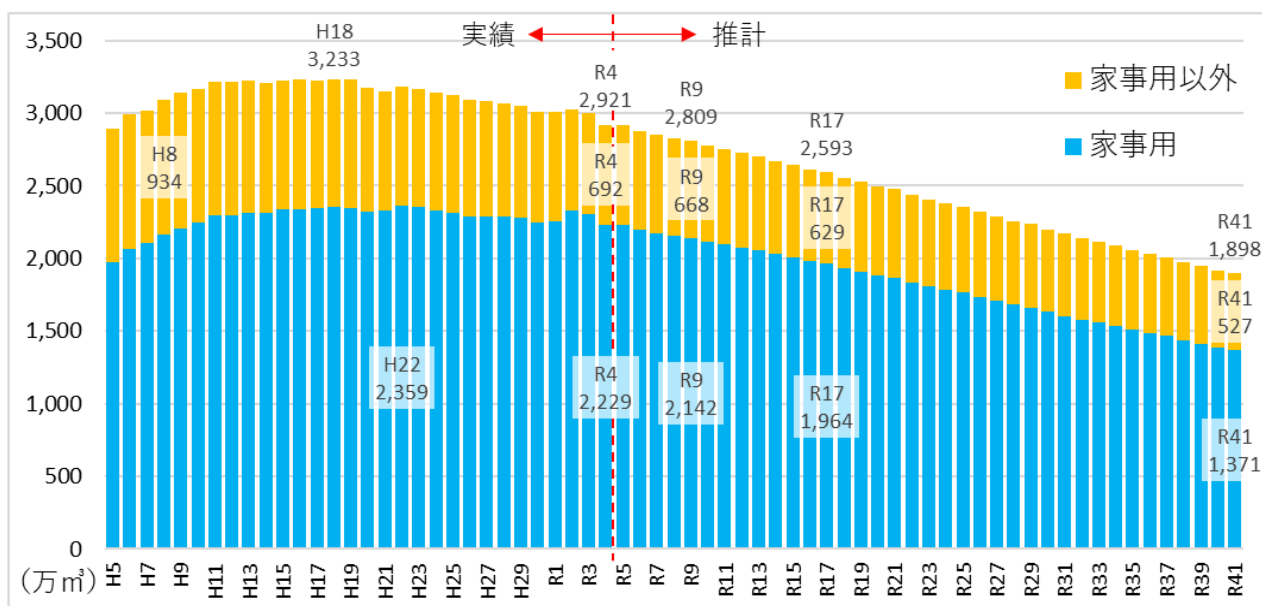
- ① 普及率は上昇傾向にあり、今後も緩やかに伸びていくことを想定
- ② 本市の人口（行政区域内人口）は減少傾向にあり、これに伴い、給水人口も減少していく想定



給水人口は…

令和9年度末（4年後）	295,781人
令和17年度末（12年後）	271,253人
令和41年度末（36年後）	189,253人

## イ 水需要の予測



### 【現状】

#### ○ 水道水の需要（有収水量）

- ・ 3,233万<sup>m</sup>（平成18年度）がピーク → 以降，減少傾向
- ・ 家事用 2,359万<sup>m</sup>（平成22年度）がピーク
- ・ 家事用以外 934万<sup>m</sup>（平成8年度）がピーク

### 【家事用の需要予測】

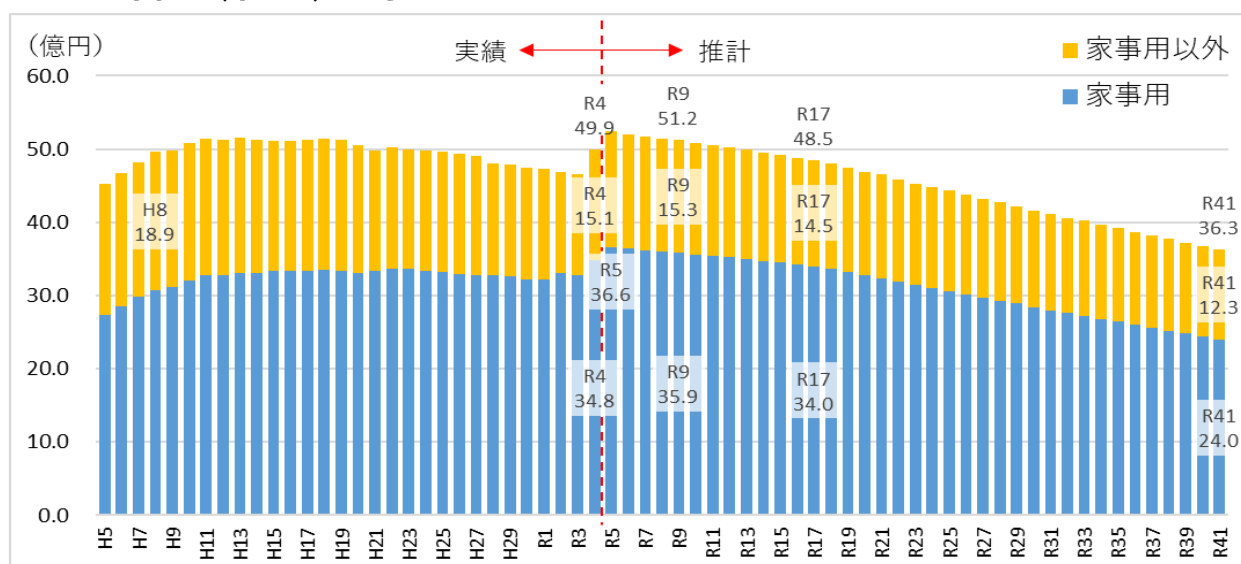
- ・ 家事用有収水量 = 給水人口(推計) × 一人当たりの有収水量(R4決算)

※ 令和4年度決算値を採用する理由・・・国はコロナの影響を勘案すべきとの考え  
 → コロナによる新生活様式が定着し，経済活動正常化の兆しが見えつつある  
 令和4年度の水量を採用します。

### 【家事用以外の需要予測】

- ・ 家事用以外の有収水量は減少傾向にあり，今後もこのトレンドが継続すると想定
- 過去10か年における減少率（平均）を加味した推計

## ウ 水道料金(収益)の予測



### 【収益予測の考え方】

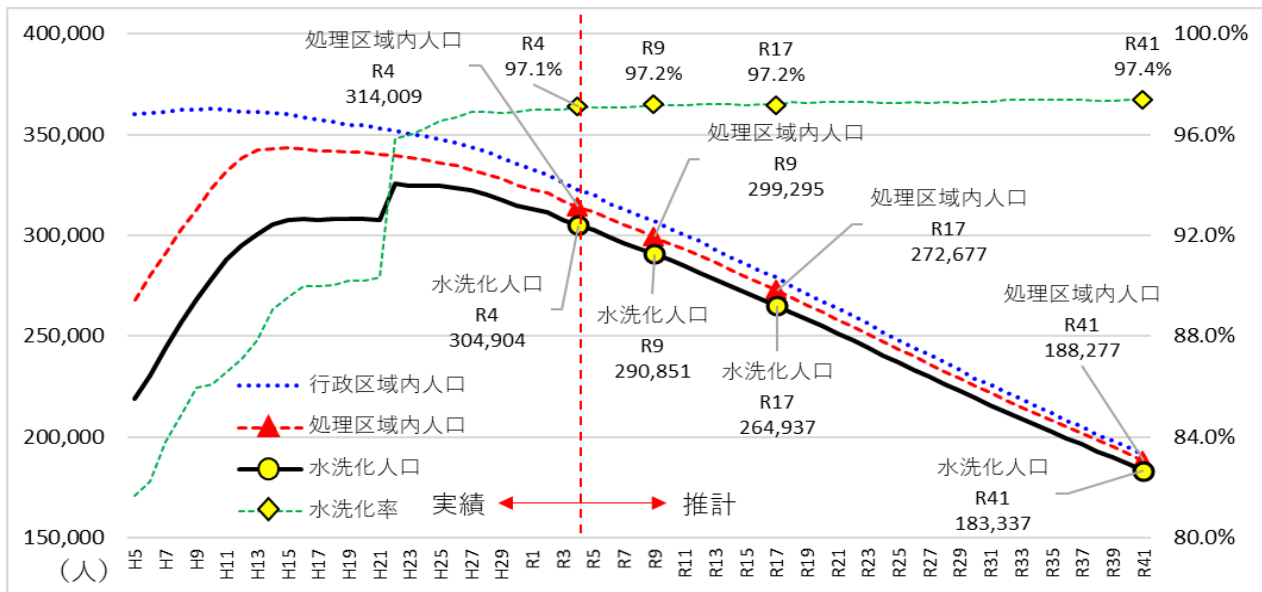
- ・ 現行の料金体系（令和4年7月施行）で収益を推計します。
- ・ 給水人口、水需要の予測を基に推計します。

### 【今後の見通し】

- ・ 水道料金は、令和4年7月に料金改定を行ったため、その効果が通年で現れるのは、令和5年度になる見込み
- ・ その後は、人口減少等に伴い、水道水の需要も減少していくため、水道料金(収益)は減少していくものと予測

### (3) 下水道事業会計の事業環境予測

#### ア 水洗化人口の予測



#### 【現状（令和4年度末現在）】

- 処理区域 本市の人口集中地区を概ねカバー

$$\frac{\text{処理区域内人口 } 314,009 \text{ 人}}{\text{行政区域内人口 } 322,527 \text{ 人}} = 97.4\%$$

- **水洗化人口** 304,904人 = 97.1% **(水洗化率)**  
処理区域内人口 314,009人

#### 【将来推計の考え方】

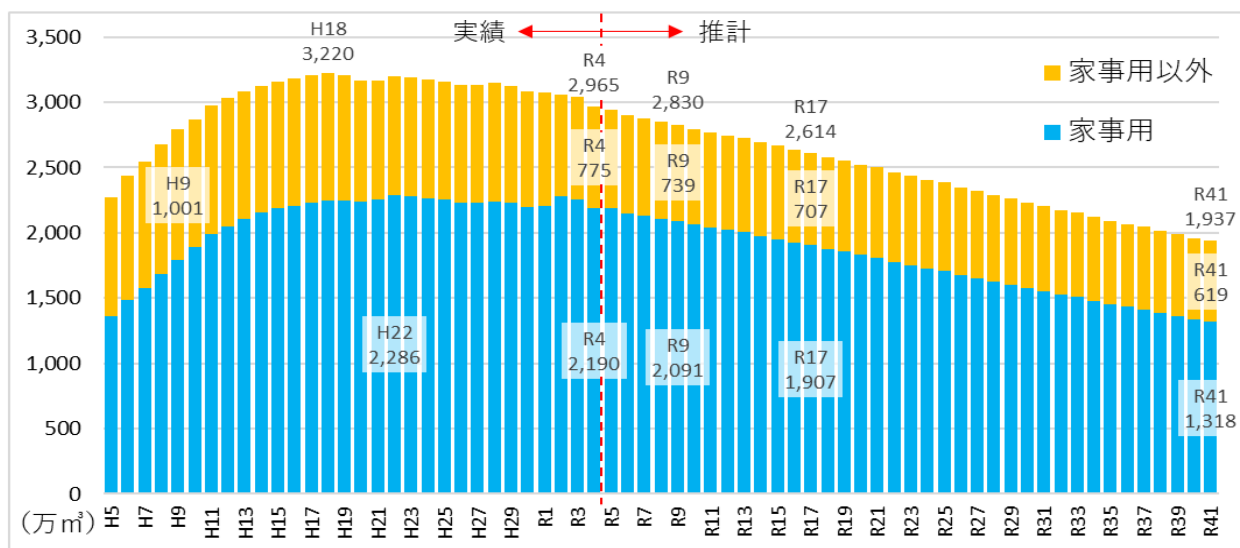
- ① 水洗化率は上昇傾向にあり、今後も緩やかに伸びていくことを想定
- ② 本市の人口（行政区域内人口）は減少傾向にあり、これに伴い、水洗化人口も減少していく想定



水洗化人口は…

令和9年度末（4年後）	290,851人
令和17年度末（12年後）	264,937人
令和41年度末（36年後）	183,337人

## イ 処理水量の予測



### 【現状】

#### ○ 下水の排出量（有収汚水量）

- ・ 3,220万<sup>3</sup>（平成18年度）がピーク → 以降，減少傾向
- ・ 家事用 2,286万<sup>3</sup>（平成22年度）がピーク
- ・ 家事用以外 1,001万<sup>3</sup>（平成9年度）がピーク

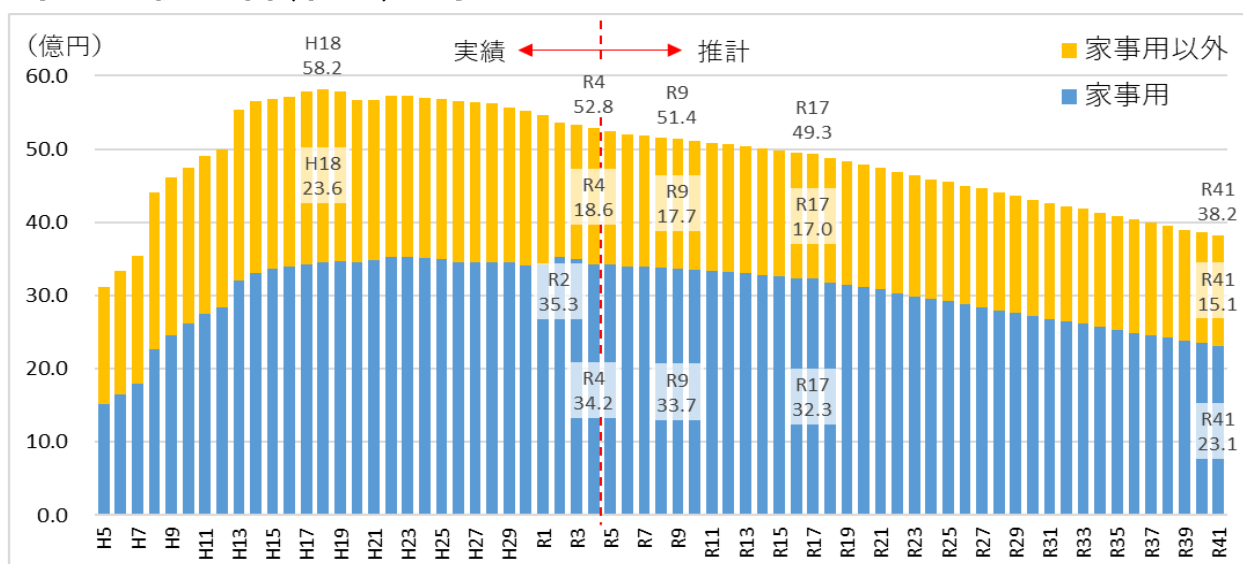
### 【家事用の需要予測】

- ・ 家事用有収汚水量 = 水洗化人口(推計) × 一人当たりの有収汚水量(R4決算)
- 〔 ※ 水道事業と同様に，コロナの影響を踏まえ，令和4年度の水量を採用します。 〕

### 【家事用以外の需要予測】

- ・ 家事用以外の有収水量は減少傾向にあり，今後もこのトレンドが継続すると想定
- 過去10か年における減少率（平均）を加味した推計

## ウ 下水道使用料(収益)の予測



### 【収益予測の考え方】

- ・ 現行の料金体系（平成13年施行の料金水準）で収益を推計します。
- ・ 水洗化人口，処理水量の予測を基に推計します。

### 【今後の見通し】

- ・ 人口減少等に伴い，処理水量も減少していくため，下水道使用料(収益)は減少していくものと予測